



秋山八相物語第又目次



- 一 王宮よりゆきゆきゆく
二 ち子ゆれりよゆす
三 般若は甚か難ゆる
四 雪山よりゆきゆく
五 深夜太主翁ありをもとゆ連よ年ト
六 富山の石とてお物たれしよ



象也八相物總第六目錄

- 一 有子而生の巣くよりを経て之
- 二 翁羅梵志は薄意を乞ひ
- 三 おまめやお仙室向と接溝

弘也八相也經第7日錄

- 一 座溝をもひひき城へせびて、
二 耶輪陀羅嵩沙懷姓の事、
三 懷雲你ちと女房まくは仕事無事、
四 紫禁太陽山へ入らせひき多尼翁對面見事、
大 難るゆき沙經法事通演経テ

秋せ八相物語

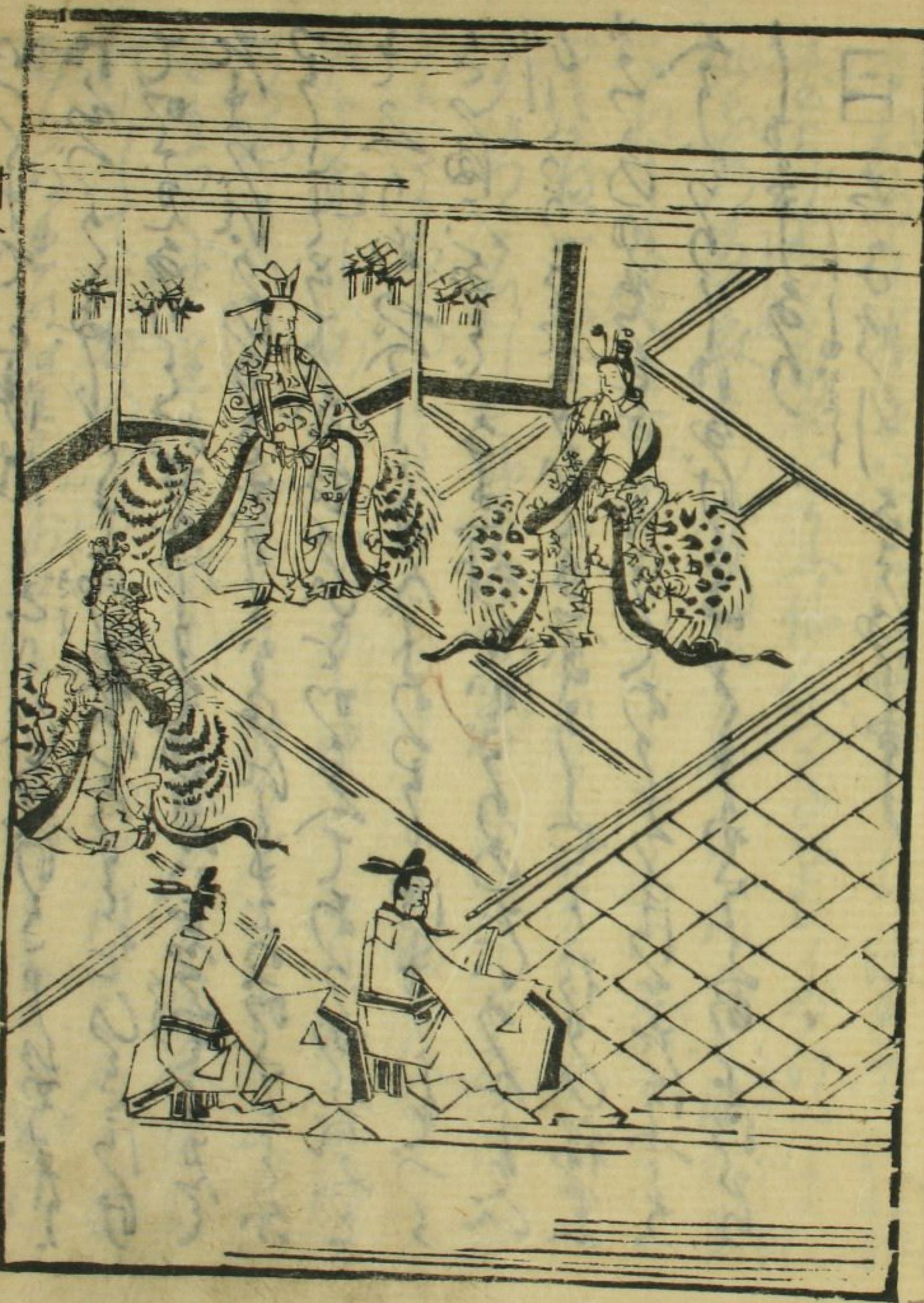
曰

主従よりきき事

孤やぬは種城乃ふさりて。ともをあの先へとあん
ちよかんしりをなまらと。うすりとゆくそりて。こ
みうどとらじゆて。もう。月をもうち廢と。月が
お殿乃おり。ぬづりとくめどらう。新主よも
ト。まほ鹿野瞿薩陀深耶輪薩羅。そのやう。安
侍女あやべと。もとよこもと。それひうちゆけ
ざや。うねあらそひ。うちと。あんて。もと
と。う。あそび。そし。めくこもと。だけを。かめ
と。もと。う。あそび。う。あそび。う。あそび。
部あはう。う。あそび。う。あそび。う。あそび。

もとひそむへりてゆきどりはやくよ
んとすこしゆきどりはやくよ
がわひこぐまをいもとすこぐにゆきりねる
人ゑ相人どりわいをくみうせふ人のゆ
かく相せしめのちうじて、地生ひけよせ
ゆうりきこいやさみあせんわり。されば丸もら
きばらむし。ばかと風うじて、ほふうけよ
もととすきがふ乃ちにゆきしめでたうき
ゆ代うべとひくいりゆすひへづらうくひを
ゆくゆくすてづらうくゆすひや乃てもやく
をがよれまじきをありとくふぞくきもや
くじくじくらのうとしき。くしてまく
きれどくままでくふすくもく。あすふくま
ゆき人やとせひくとくにまくにまくにまく
まくまくとあまくまくとく人をもた居ま
くじくじくやとあまくまくとく人をもくじく
くじくじくせんまくとくじくじくじくとく
とくまくとくまくとくじくじくじくじく
かじくのゆきよハムとくじくじくじく
わくせくじくとあがやわげとせんじくじく
うまくまくとくじくじくじくじくじく
まくゆきえくじくじくじくじくじく
もくじくじくじくじくじくじくじく
もくじくじくじくじくじくじくじくじく

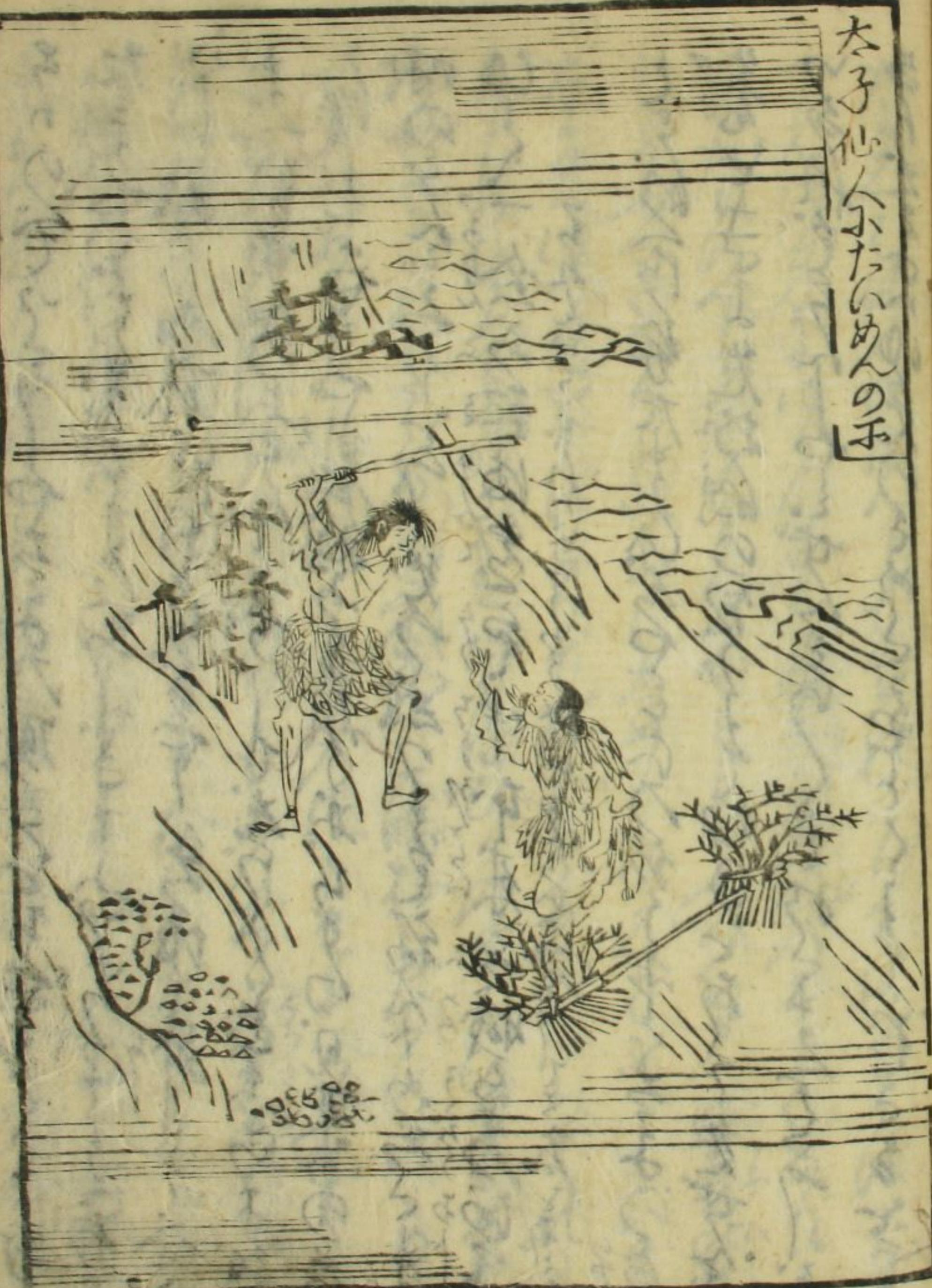
せんじゆりとけよすやへたびくよへぬきばも
夜ひて、はるあたみよゆうひゆぐと。これ
一どよそりんわ。おはえいやんましくて無
やめたら身はなまへありあまくみやあがくと
せんじゆづきやかのうみはなひのうの
未だありまぬくの津や乃とすにしもて
わらひりびととあがみにさりくわがち
つものとよらふよかわれどとまくまくうくわが
うねりはりあくとりとせとめりしよみとの廟
トとあさまとあともあとまことじう。あひくを
まちよだりけりんの命めうてごくん人あらや
あく人のあらへるむとむねのうじる



卷之三

とておめつらどりうり。つけゆ乃めうとをま
ひる乃はらあり。とくま中とくうりとくうと
影一て金剛輪と。お義輪の輪じて輪と
と見て。とくびじとびてかくどうぶとりと見て。ほ
あらわす。あらみとらわとよ。極又あらとほじ
と。陽性法徳現成。そらの性食あらてしめ
物。まことい難事。と麻ふ来る。麻とて。三度輪と
かうどつらと。ちりをつしそと。これ歎今。の
こやうあら。あらあると。ひとわら。やま
ようこうじと。あらう。母のねらのあ。世戒力。
なまく。かくとく。ゆよろと。あまき。さく
な。波。かづ。ゆ。り。ゆ。あ。ら。か。づ。づ。ま。

太子仙人たひめんの玉



神カミは^{カミ}度カミナリを御ミツメされどあつら室ミツメすあり。方カタ事カタ事カタ
と神カミとて、國カミノクニとすよりもとてくと。附カツメ附カツメれりや
ま也カミ也カミのとしものほとけとあつ。えど、かのきのまを
うそカミそなり。おのよねとねとねとくふあくとすまに移シテ
あるとづくごまのすとくふあぐらう女カミアヒトと
グミエミカミエミカミとれひとめとめとめとめとめとめとめとめとめと
足カミうち。せりやうういひうじきとと。済カツメカツメとつ
えりとあをうもうもうもうもうもうもうもうもうもうも
たえひやうもあらをまよ仙カミに縁カミして賄食割カミ
取カミを天カミ降カミせりやう肉カミ外カミやうとまう天カミ
降カミ無カミもあえ。聲カミは聲カミ無カミ無カミととひくを経カミて。
ゆ用カミ玉カミをゆくとゆくのあてとゆく免カミ難カミ難カミ
力カミ逃カミ難カミ難カミはせりせりとを難カミ一カミまへ
あつてしとくままだらすれなきとく。ゆゆのと
かくまぶくかくばんとれりたまくじ仙カミに縁カミ下
てぬカミくまねうくまうくまうくまうくま
ぞげ身カミよけつえゆづらうと津カミをととことととととと
あくこくしままけつえだまりくたりらくままで
あんじやうちもとねまくつ。ち通カミ身カミよとよと
ひりのとくまうきだまうと照カミ身カミけり津カミを佛カミと
キは身カミのゆまうり。あうがこうらう身カミあり。とく
うとくはのゆくとてまゆるの本カミのやくとと
ととととととととととととととととととととと
飛カミう飛カミ二カミ千カミ戒カミ二カミ千カミ戒カミ二カミ千カミ戒カミ

と一戒もあやまちとなまりば、うぬを解トたまひ
仙家の衣裳とあざりて、自然の衣裳とがうへ
もたらドのまつまとう。あの魚アテテ、はる
くとあとかく、なましきり。あらわゆるよこすもあつ
御心とて、ゆゑこまくを輕鄙りとひやし也

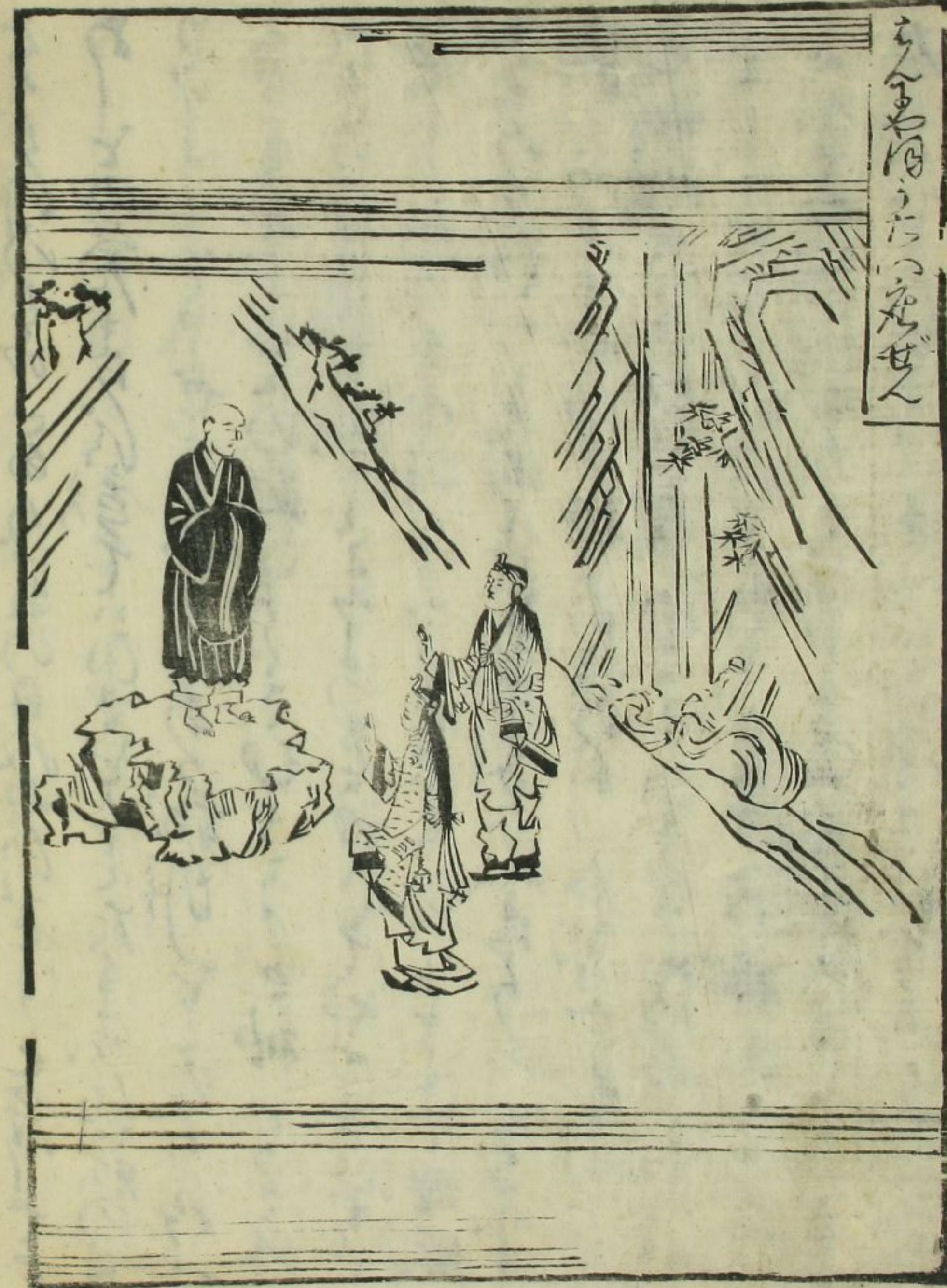
三 終わはるから仙人よき終ふ事ノ

されどあはれ仙人ハ、此事はとれども、かく
はくとて、たまに、ひめこ下せの様のアリて、スコの振
きよして、五邊のアリ。もとより、さくと、母乃生の
うんも因縁も、アリ。わざとくは、極端とくだりき。さう
なよ。よ勇氣の仙母と、しまう徒帝及天乃ゆくにて、
御事東流佛の因縁と、さくらく一佛降生の歴



たましとまくを御下のまくじおりがくや
極めてしきよじよ極めてみるもとのうぐ
ゆきみの天へあられ南無佛國を讃嘆
國もよもうてきのよわぐらあらわらとこじ
ゆきありえこうとゆ免とすてま教にちかく
を直義またとくとくうふ一人の天人あまざら
こあんよび金の衣とたじり鶴毳のあまざらとく
着身とされとまつとまよびとと免とよび
とまつとまよびととゆくの内まませば玉を
みてとまれあらはんねじりよハあこよせ
うるまわら唐絵御とまくすの臺をよては
いなまひきはたのまわり黙喜也じめぬすぐま
まこと照喜ははまとつらとくふ本の仙人とま
まうらもまやうの神とまうとく。圓佑默佑と
とをこそせ五年ぬの神とまうとく。圓佑默佑と
まくをるとちーとまくらふ生のらうり。とまく
ハ石室もあら。がほの法性は真相もあら。がほ
めにせしもほぬまめあり。とまくらのらうり。とまく
こからかの修りとまくらの修り。とまくらの修り
のらふうじくあり。唐也多葉樹とまくすと男
このと本種すとまくすと。一旦に一まく。畢
よ金もまわらせとわくとまく。ばまやねすと云
わく。天門をまくじえらはぬまやねすと云

乃へ給ありば裏よりおれの勝とばはは事とが
まほりばたきのとあつて金額實石とよね
石あり。それとま縁の本とひこ先。一百日ハ起るの
所也。一百日ハ住居のせん。一百日ハ外れのござ
所のうちふもじりんか。行のうちふも金か。行の
うちある。それ仙石のありあり。りどらすの御
櫻あり。すにもあるやまととから。天乃ゆきを
うそよしとまくしてつじて。仙事のほむくわな
つまく。故のを布きわすまにそえゆくまくを
あり。されもととちととち子。め全利仙と見
てとまく。御入なまく事。日あくと。やせた。仙
とてわふとみれぞ。而男が蟹身。わぐによる
とまくの内と。がめり。其の日。あくと。とくと
わとの。とまく。ひきて。ひきと。とまく。はねの目
かく。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
まく。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。



足繩乃拂ふ身を先とすたうすすみよめ
あれどもまよひをばすこへようすく
ゆきよせをのつよそりや。まことあひ物うふを
なむ。あれ身よりとれまくらひをとほ
てゆのひと御懐とくとだりゆくとてまく
ゆく。まちのまゆりありいやしをこすり
うぐはれとくよゆんざる。たまにと天氣をよ慶
ト。や成なりふきり。おはゆと乃仙す。わ
きけくらうのまうをれがまとと生緑の草
くとを原と。ときくらうをよゆり。けくらうやうじと
まくとよかくらうを。まくとよかくらうを。わ
うまうだくと。まくとよかくらうを。有緑やまくと

あちやのゆきすくらひよし
三さくわひじよもとてゆく
ちうじゆくゆく

高山子行其事也

如作仙人あらと見えられ。かくよめが金村さんを
かうこひの審議り。とまどふ。ようちものせん。おれ
もといお事中。ひの思ひ。競志と舞院。府。度師。耶
ニ。徳乃仙人。とたのまう。徳ひ。とそそ。り。を。下。毛
ひ。徳家。徳社。あらと。わたよ。うれ。徳主。度主
薦。一。唐耶。林たの。き。ま。う。く。ま。ひ。せ。の。ち。の。衣
と。う。ひ。こ。ま。う。か。び。あ。ゆ。す。く。こ。う。衣
う。と。う。ま。う。か。び。あ。ゆ。す。く。こ。う。衣
う。と。う。ま。う。か。び。あ。ゆ。す。く。こ。う。衣

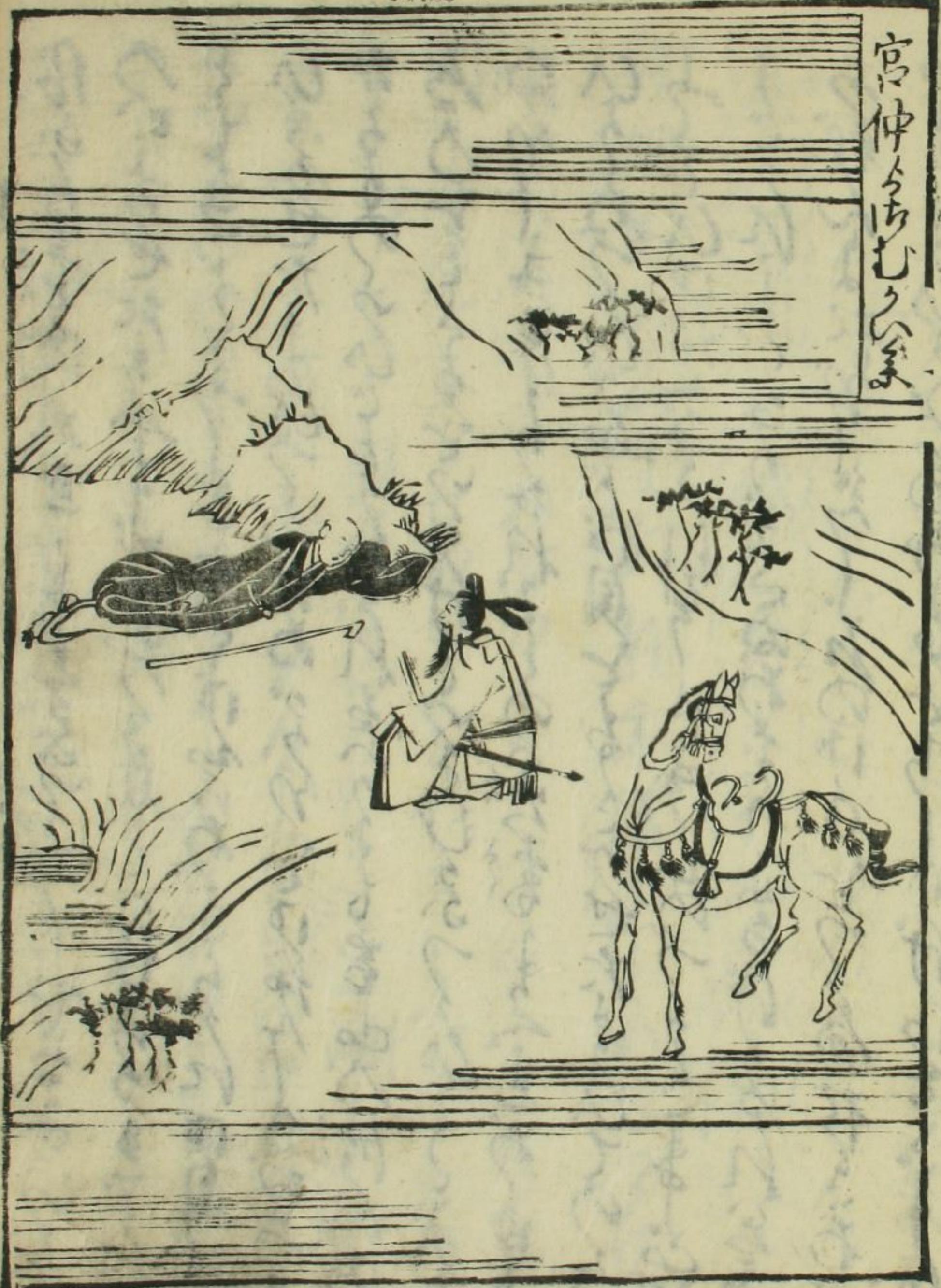
ひつこう屋を子ひあらあめの先のとくとくす
れのうれりてが勇れりてとくとくてだらう
ひやうへはく陰経陰経のとくとくとくとくとく
をわれりてうとううううううううううう
騒音うううううううううううううううう
たすかうたましわさわぐくらううううう
うとやとをうとまうむう

又 洋服を告わりをすとゆる

あみひの内ゆくあると能り廢かといります
ひありきゆとよまつせがもととくはあらう
まだげがやとすひて天女を夢トて薄衣の洋服
五毛金くじゅうとくとくとくとくとくとくとく
思ふとアラルこれが多ひ事きちまほ
だんとくゆきこよりう辭り六度のちのどもと
てえ書くゆくゆんとて大紙とれりつぶやと
辞り書く紙とふ原うちのようすとくま
うぶあもとくあこわうと海うわわうわううう
ううがけらやうふうううううう門のううう
えくとあわれとゆくとてひくよまかづくと
やうれい車をすととととととととととと
おおと車をすとととととととととととと
おおとととととととととととととととと
とととととととととととととととととと

もひそれらの事とて、まことにあはれす。あはれす。あはれす。
さす西山がそらをくみとつむかへて、ま
ふつまつと落より、ともすまんじゆくふう。
ウとつりうどんびとひづれにねばへて、
もやうととのせんじゆて、傍院夷ひもやもむけ
そし曉月昇ゆきをさげ。立ちとやかかの草
つるる。うつとあがひーひどあるのじら
ひよひとぞれのまじゆ。こかうり。せせま
うひくづれまひ。あくまぬがくもじく
門とくちくとくらし。うだいひそそぐてからよ
こそこればいきゆく。まゆく。あくとそそぐ
つけ。ほなう。うらむ代官をうてうたわう。

宮仲ちひじ



作ありとす。内にあまくもとまづて、やまくらへる
のよりをたまふそひきだるもとへり。すりとて、
どもきどくうさぎかくらへり。あくらに胃派
いはせたまひつ。うだかがくわとひ筋下へり。あ
たまみゆどくふくれをいはまも。おひはるの
みゆうとくとくびとつも。ひづくも。あ
ゆりきたむりされ。まよひ。ちもよ。あ
ひはくつひゆと。肩と。もよひ。せたまひてのら
うじ。ひゆと。まわら。と。けんのつ。まよひ。
あまくらへり。あわまくらへり。ま
うまくらへり。あら。たのけと。うし。おわら
てたまひく。おのゆと。らわげらへり。

たまひし山とちくとてうかぐれじ一かひといもんあり
集むる大樹森條枝叢と衆の名々散ば日あ
利相不和處も別離亦複数とあらうてあ
門に立とまらせあげよくやうとすと
あをばうなると座つづりを二時しとや
うちみどよけつゝとまのゆきいわ
やまとひらきとまゆとねいゆふたりと
ひりおもとまゆとねいゆふたりと

去

10

1

きめりよしめどたゞひうどをまこと
てやうれむわがつるのあらゆりて修まみ
地くらゆと神こもやとうかとあめぐりま
くまくまひとまいたくひづきのあらふ
もとがふあとまく修めうせてもくあ生
りてあまにやうはうとせじとあくとほきせん
すありとくらゆかとだもくくれまくま
えまわとせんまくはくはくまくま
泊宿相故に苦心石二取正一め自立まむる一
風帆船とどくたまひくめまくまく
だくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

同上人から城下



秋巴人相和歌

私也八相物之那之

曰 おまえをもよの 繩とらせ給ふま
ゆきはちよが全般は ひたすらに
とよもよして おまえのよき
よしに 陰經を うなぎのくちやまく
こそこそりと まきと 黒のかじやつじゆうつ
うそりと まくらと だらうせえ
まのひりと あつて かとうらへ まのひりと うそり
うそりと まくらへ まのひりと あつて まくらへ まのひりと
まのひりと まくらへ まのひりと まくらへ まのひりと
まのひりと まくらへ まのひりと まくらへ まのひりと

うすうひとくもさうじともやまゆのむらせこみを
あたまをかきよらやあさのねしもとふぢくの坂
がよそそあらど那年鼻舌心とひらきくみ
極へきれらるやまとれひきりらの病
とくへじ百千方のようひひだらまよばがゆり
もかくうとありうるそら病外令うきよのせ
あふれしんあまゆとよがでもうくしけ山を
筋走れどこの巣へてと先鶴の言ひた筋走
えのうあつらの巣へとよがでうんくすとや
うかくとめり。微かわいの山あり。どうりし
手てかねまくもゆりもゆのうるばる
えられけりがわきゆとよくよとげじゆりのち。

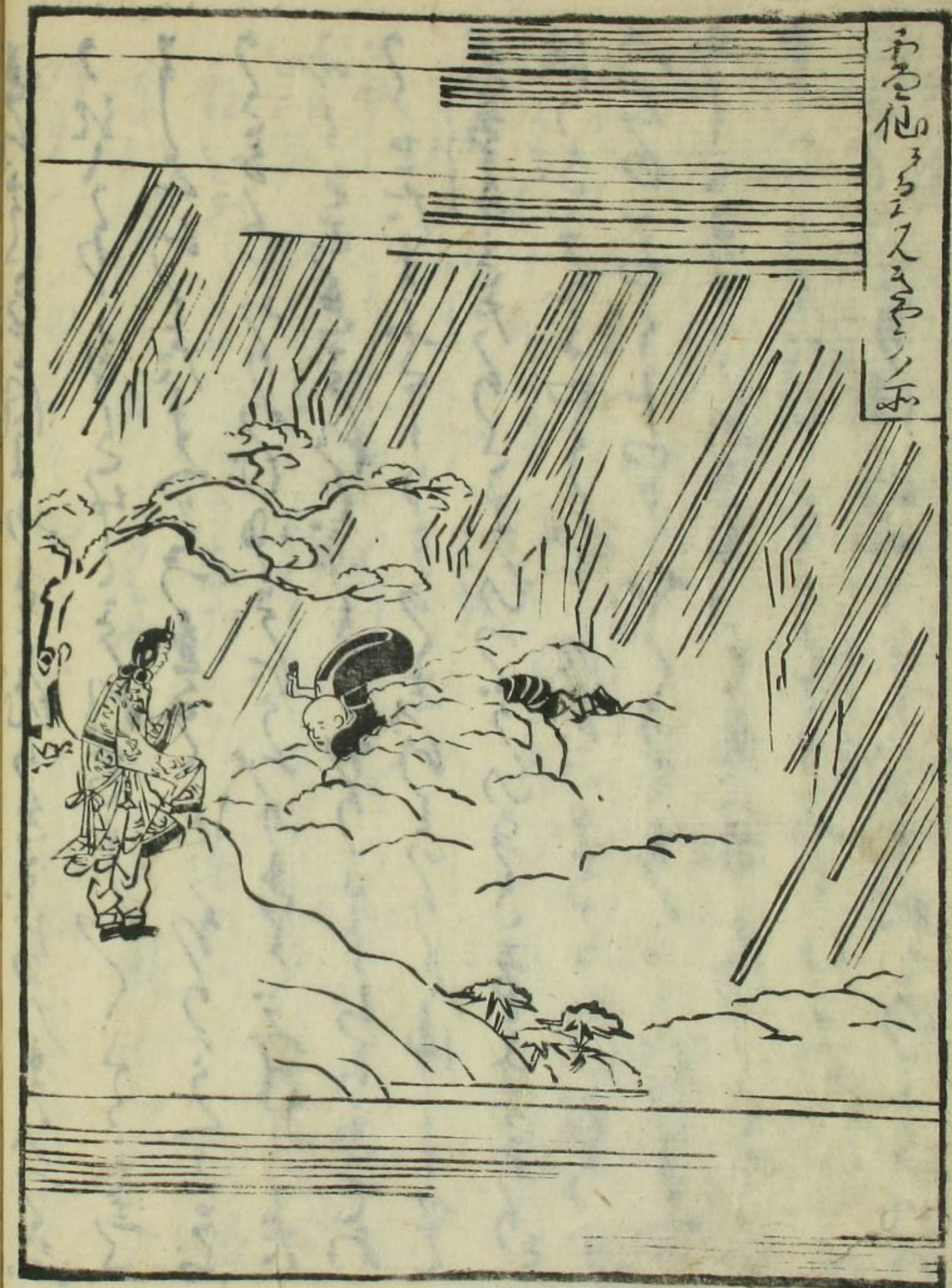
金額のうぶんはとぞと御すうとうが。お宿
飯あらものとゆううれふるくはのたとけわ
あうどまともおれのうへゆくとよひがま
月乃山やあくは島とおひりがま更飽家
とくふくらひあくからふかゆをひのくとくふく
人ハ痛癪とゆふれやほの肩とくとくゆき
タヒシとくとくとくとくとくとくとくとく
雪あらとくとくとくとくとくとくとくとく
界にかね峰のやつとくとくとくとくとく
うしめり。住みおりぬくとくとくとくとく
まぬくとくとくとくとくとくとくとくとく
忍と考へたえせ無法の修のうり我め方を

多々うそぞうげりやくはりあひそゆんくとすちの
うち角ありまどあひる乃まくふよせなまくまを
のうりあひ下であうひえあらうひがうひあひれ
ぐるやあ圓鏡のう澤あうやうんと摩珂謹板とゆり
すたまひゆきこく磨耶とくわげく漢書を得
め窟室か窓とほめん磨研を取りとて下さ
ゆへじゆあひりたらうらひくけ山房もゆく場
て至用をひきりひかく、事ひひりあつうわ
く拂ぬすとそあうひかうしゆま重
曰釋迦志よ萬葉をみされキ

かくまうてせんく也あくまんくくら仙
くだゆうのあとかく病く、苦のゆくとて
こそふゆきとせれうがくにひせととりら
たまひちとやゆが、もととつといぢよれあよ
高きんあいひれりとくかへだくせんのめ
金利仙とふあからうびもひとねとあひんくとく
えんよううだまうひうやうたいうへたりくまひ
りめ金利まうたまうのひとあひまく、篠天
ち縫乃生ひれりとや情身令下のひけりひ、
もやうやうんうとある。剝れとあだいとひま
ば篠乃生ひれりとあだいとひま



ひづれハ九歳を負ふ日。父も母もお歳を多め奉る。
はまかに是事も、うそとうのうへて、常
金毎日中、ねえめり。一日にうじびひにとんを度む
金毎部。二昧と教へき夜はと昧と対於伴
郊ニ味八三事たふ乃ごんまやとあざつて、全
とあらねどかりとすてナリ。つゆはそりと
三年室のととひあり。とせしむろへ小室主之禪其
祖に、れまくとくらまよ室を、峰山と、麻姑山とも、め
まむ高きものと空くと生様して、活ちよ歴今もと
べきあり。まつあつゆだんぢく、うごとすればじう
とこあい。ひづれりとせんきり。お金村とよひと
つて、お山園村とぞとあるとぞやうととあらま



とうどくありまほへんとどよつてだせ
ちがるのいせりとめきりとひそくうき
それもは若竹中くよふううりもくき
やう経とびらきうじくらぬくわくふく
とくひゆむかはまくまくまくまくまく
緒序御のちのまやうのとあた圍行の勧め
なり

三

ひふちやあはる文林略す
あはるはまくと不こちひたまくし省ふひく
よもりく福徳とまき生佛はともくまく
ちよきうをくわくくやくくうりけくみく
くはくのりううがよ乃二句とはまくべつのも

ひまくわきと一處もよりよしとふとく
たまごともゆくわざりありざれぬくくな
よまくはりあらむもとでつるにやりとけくか
のたまやせりたまごをひき八面ハチトクの巻シルありまよ
はりんとてとくにあらうがりへあんぢらじく
わらきまふまく、下まよまよさきあへるまわ
よのこりへぬくう。下まよまよさきあへるまわ
てよやく我はなすまよて行ひ所シロ。食ふうまよ
ちのうべからまよと下まよまよさきあへるまわ
生くあんぢらぐ食まよいとまよのとまよとまわ
るまよとまよとまよ。下まよまよさきあへるまわ
まよだひをまよひがなじらぬまよ



まうべし。まづくのどしたはもとんをりづくよ尼
补、云てすまふまづ合、さういたまをま
う。まきれと、やなまち尼补、總乃合とひて自
スのとづべとあり。化りつゝ自あら、自の合が
して化の合をうどとあり。自もく化あり。自化
一めあうとおこまひて尼补のまどびへこまへ
いりきうり。尼补は小善もとをうて生補、
本
事、憾るおこどりゆり。うきるゆび尼补を
とむとくこと下、ちみとほは意臺の見
物、うきへば、はね我ハ尼补よあひ。むふゑや
を佛うねむり。汝身をひひりも。モレ無事
うちうかこにうつぶひりも。くねの合うん一ぢ合
わ角だとくびすす方のあやですよまと「れ」と
んとのれもくととととあるももやうとく。
せりもやく西景ありと一切も。やうとく余
たまくべきあらむれする思ひととととととと
とととと結佛、畢竟ひうてあつと全剣、寔合
とろづけら、あんまんとくじとくじとくじとく
固くとてあたるとれうるまひ吉祥事と早う
ある。ナカミのやれのとくとくとくとくとく
セ佛お奉事不つまを。そるせがの猪生養原
セ二猪、まえ匂えのみきつとあくとさり。モミ
モ唯ま猪ものは佐子ともあくとさるえだま

若水も若水、亦主安主我安主と大至夫也
主とて若水の主をより易たまふ
主とす也

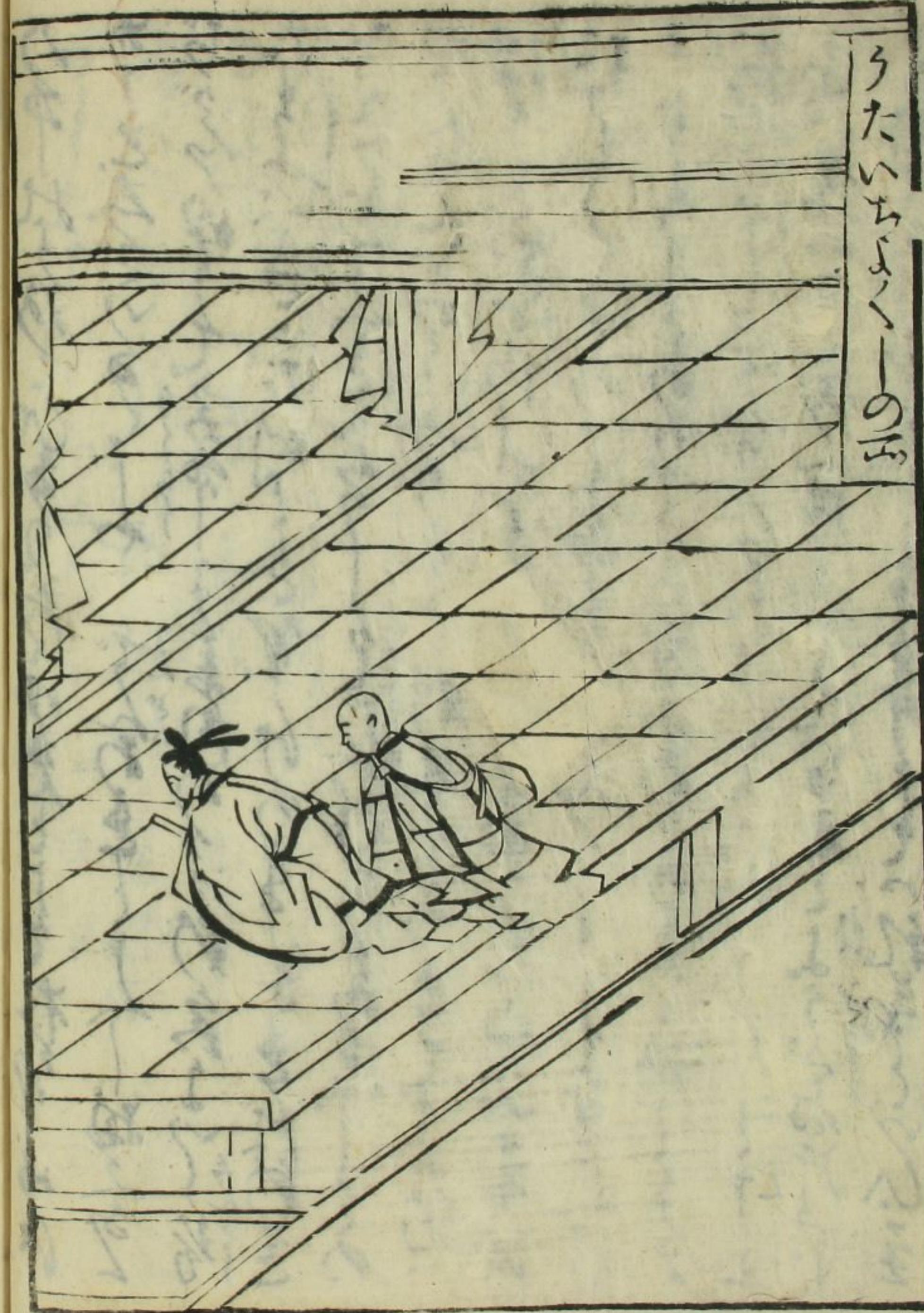
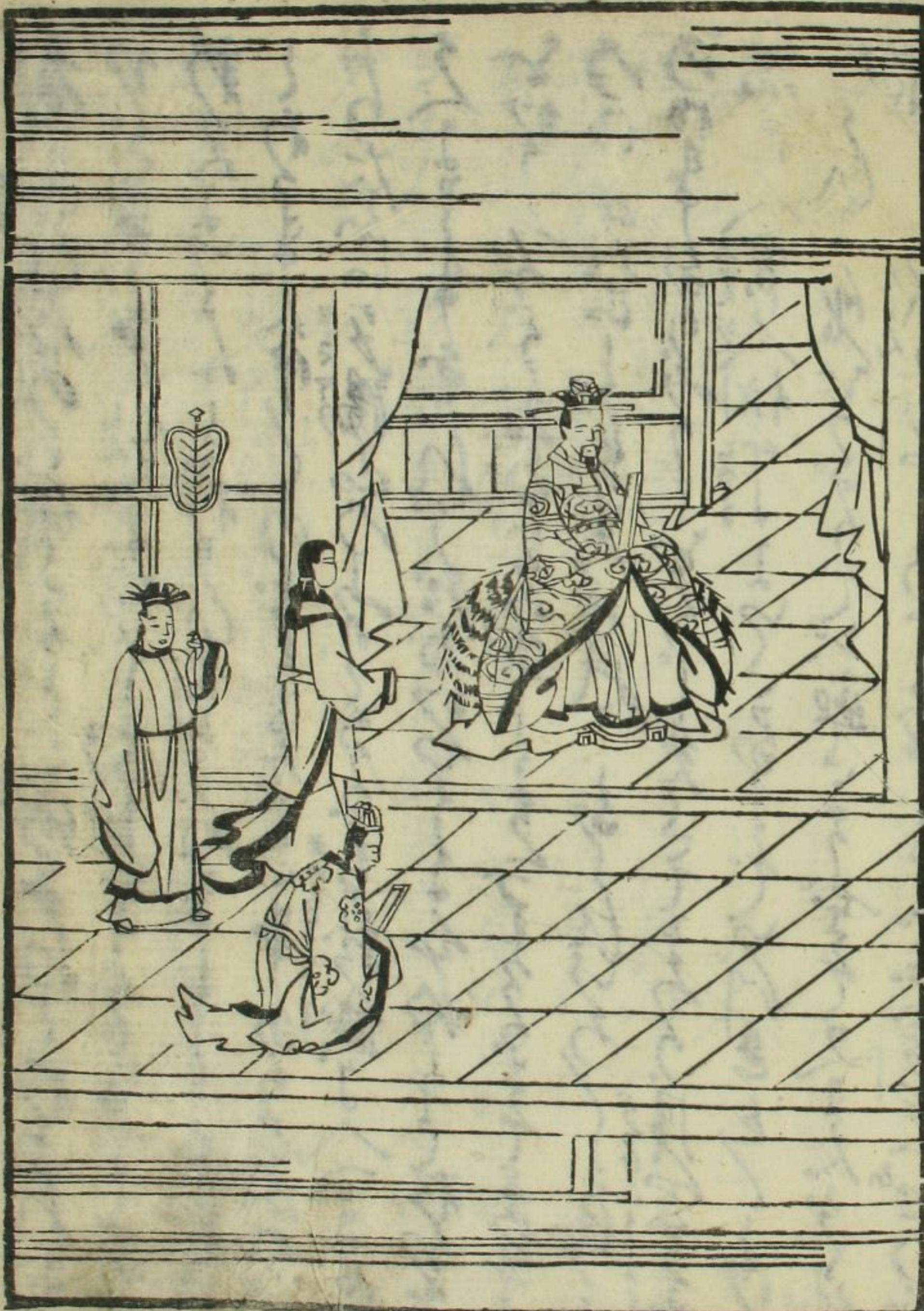
卷之八相國之終

歌也八相國之終

曰 疾達達出わひかじく城へせ終事
往れらもと雪地疾達^{サフ}山^{カタマリ}せたまよ河^{カタマリ}の宮
城^{カタマリ}りけらうんそあ^{カタマリ}度^{カタマリ}取^{カタマリ}山^{カタマリ}にじろよお^{カタマリ}く
たまよ^{カタマリ}氣^{カタマリ}氣^{カタマリ}走^{カタマリ}て傳^{カタマリ}移^{カタマリ}難^{カタマリ}本^{カタマリ}一^{カタマリ}音^{カタマリ}平^{カタマリ}
あ^{カタマリ}もつ走^{カタマリ}て^{カタマリ}弟^{カタマリ}子^{カタマリ}よ^{カタマリ}ゆ^{カタマリ}う^{カタマリ}し^{カタマリ}それも^{カタマリ}
あ^{カタマリ}此^{カタマリ}山^{カタマリ}よ^{カタマリ}う^{カタマリ}し^{カタマリ}走^{カタマリ}う^{カタマリ}たが^{カタマリ}よ^{カタマリ}般舟^{カタマリ}味
と^{カタマリ}と^{カタマリ}身^{カタマリ}ひ^{カタマリ}金^{カタマリ}利^{カタマリ}弗^{カタマリ}同^{カタマリ}盡^{カタマリ}せん^{カタマリ}ぐり^{カタマリ}て傳^{カタマリ}達^{カタマリ}累^{カタマリ}
三百六十人^{カタマリ}わ^{カタマリ}て^{カタマリ}弟^{カタマリ}子^{カタマリ}よ^{カタマリ}ゆ^{カタマリ}う^{カタマリ}ざ^{カタマリ}れ^{カタマリ}る^{カタマリ}
や^{カタマリ}來^{カタマリ}ハ^{カタマリ}御^{カタマリ}子^{カタマリ}行^{カタマリ}う^{カタマリ}き^{カタマリ}と^{カタマリ}も^{カタマリ}して^{カタマリ}全^{カタマリ}
諸^{カタマリ}も^{カタマリ}物^{カタマリ}耶^{カタマリ}尼^{カタマリ}國^{カタマリ}度^{カタマリ}也^{カタマリ}歸^{カタマリ}本^{カタマリ}也^{カタマリ}と^{カタマリ}せ^{カタマリ}り^{カタマリ}
一^{カタマリ}こ^{カタマリ}す^{カタマリ}い^{カタマリ}く^{カタマリ}也^{カタマリ}國^{カタマリ}達^{カタマリ}本^{カタマリ}と^{カタマリ}波^{カタマリ}こ^{カタマリ}ま^{カタマリ}乃^{カタマリ}わ^{カタマリ}づ^{カタマリ}た^{カタマリ}ま^{カタマリ}

は妻の御耶と云ふ事ふ生こまひ舍利弗とは
仰となされどが如く誠にてり。うふうだるを
りつゝもうちんわうはナニ年。うわづらあゆりと
ゆふきれと先祖山とどうじ修あり。五位也と
く向まことはんりかのやうさんとこと
きしのとそりんわ。後後夷ひねじきとら
やうたつておこりよじうとさあくらをもすと
じよざりんたまびうとさあくらをもすと
んけもあかふひくもくわうとおれりえうれくえ
わへ従僧とすとあらう。おきうとらきゅう
がなみへ年。ひけく功とほとあめりぢやうえ
ゆーたまひくぬあらえとあくじとこうじ
りゆはうれとびきり。たゆれととおれり
かとあきつて。うておれととよ。おれ
ぢがくゆて。おれととよ。おれ
たまうべきだりととよ。おれ
ととよととよ。おれ
ととよととよ。おれ
ととよととよ。おれ
ととよととよ。おれ
ととよととよ。おれ
ととよととよ。おれ
ととよととよ。おれ

うたいちよくーの山



才七

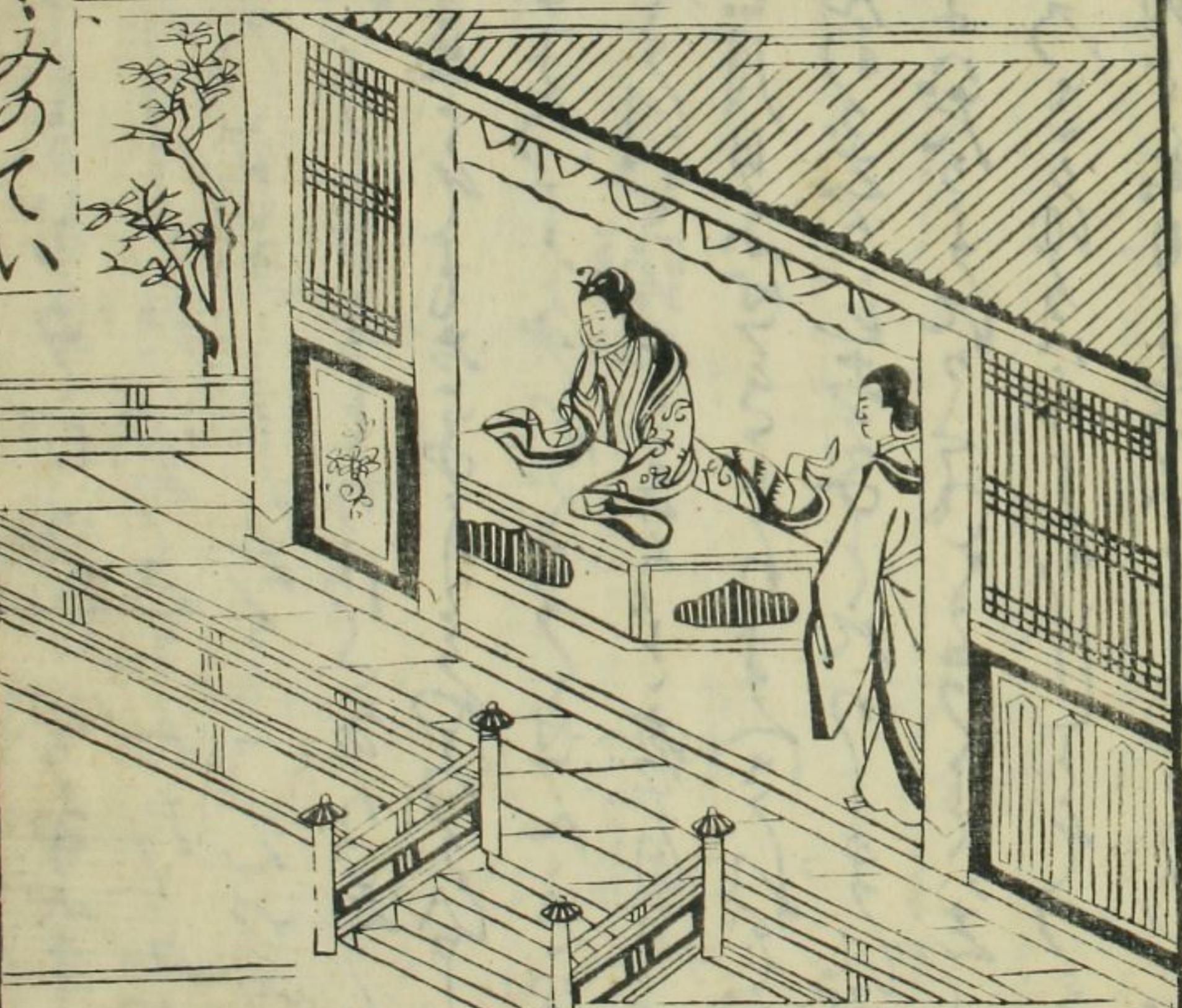
三

二

ヤ
ラニヨシムヒテ
耶輸陀羅女は像姫

かあめくたまわや。新うみふねりしませんも
たら女房の心中くつえひすありえまと
子乃正されどとおもひきりみあひうげを経ひ

やあた安あやみあてい



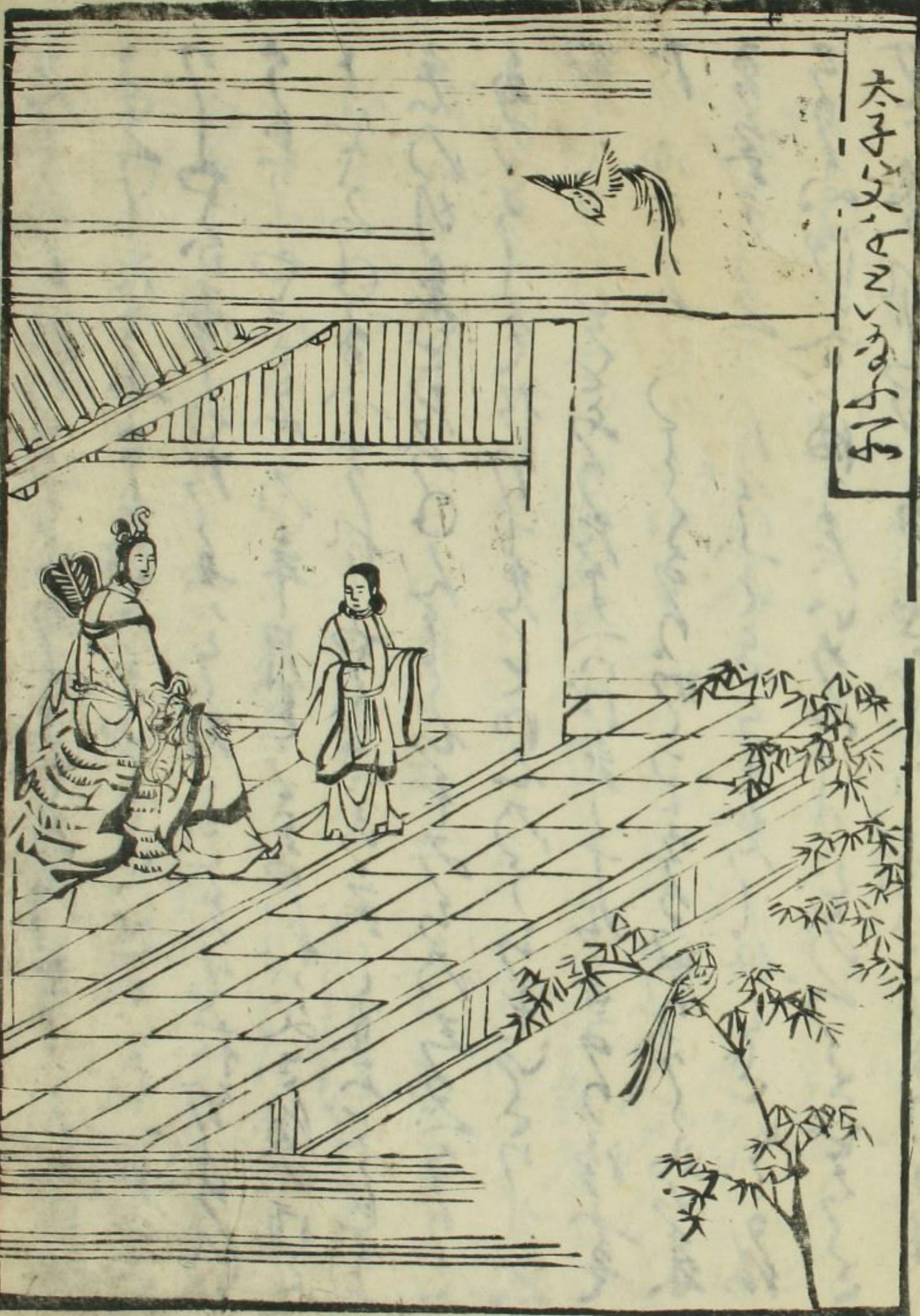
そくすすりあはれがわきとしきをせよ
わびしきにうらやうやかめのたまひ
うとさうゆめどりあはれのつもぞ
あうゆめとまわざのうそじ。あら
とやをたまふこまつをそばらやうだつよ入
ふ身のうげきわづきやまくぬくよくせ
くぢきじわらゆくとくとくとくとくとく
ほうふうゆふううけきひよく見とくとくとく
りああやとのうううとくとくとくとくとく
くちどくひくとくわがわがわがわがわ
うたうひうかくとくとくとくとくとくとく
りきとくとくとくとくとくとくとくとくとく

卷之三

六

ぐりくもくうふまんとてうとつも一つを
くらむとくりてがいどとくじてゆうきつをあ
えとわとみゆで御母の本やく女よわり
けりうわれあはれかねをよあそいわきみ
もともと父母があらうととが父のうづを
やまとくほとゆすあり。おもとくひましけ
あうかやあくらいた女へひりとふくや
つまことひゆや。さて御母の又のう
あらわらやうらきよゆと、おらそくまひ
づらもあかなよがくくもとくのとくせき
くらまとおとすとく。おうりの神とくらび
あくうりことくあごまひりあげたまひく

太子文とくまふ



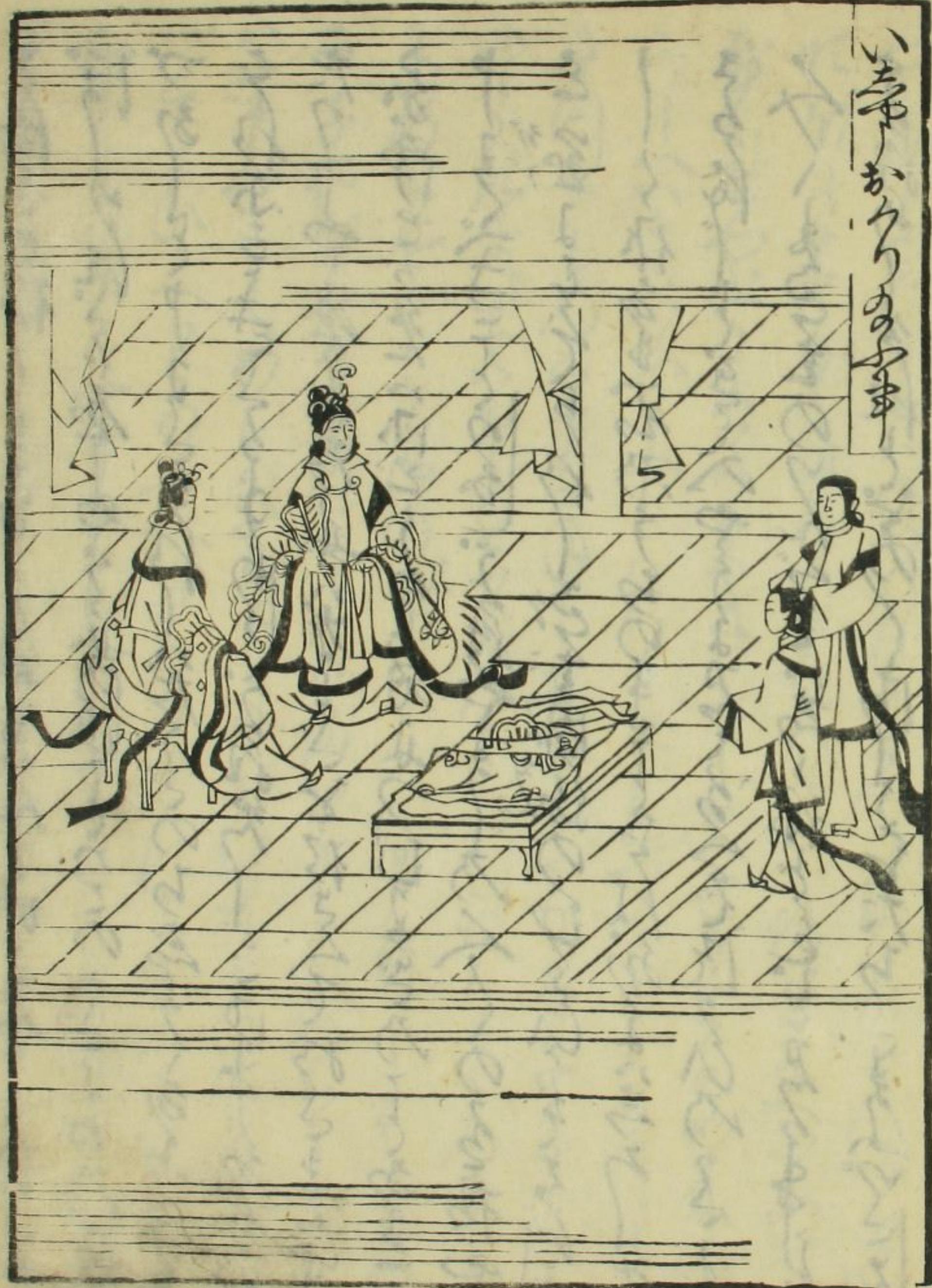
凡そのうちうごきあつたぞうりをやうとては
ようへんまよへんとあまくせこあでどつ
ワヤム原あたゑひうよこをとおがりし
うきしやじもわ年月をうきかねはえみぬの西
ととよくまきれやあばらまともととと
まつりととづのんとをみちのうぐりき
あまくわれりをとゆるのうをとくに
かでりうどとあたなまへ成年十九より清よき
たゆりううくうりをうりやつこうねりくくせ業
ままでうくうりをうりやつこうねりくくせ業
さすくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
さくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

二

橋墨云海より其原をへてはあゆり
きわめう月の原のまやくとせんくとあ
絶くと新えりくくよゆつひととせんくとあ
きよもつとせんくとありうきとせんくと
十二人方とうとくのめ原をうは月の原よま
うあたまとまぬとせんくとせんくとあ
のまうんうへうせんくとせんくとせんくと
りうへうへうへうへうへうへうへうへう
かくひすゑとせんくとせんくとせんくと
まつよゆうりうりうりうりうりうりう
りうりうりうりうりうりうりうりうりう

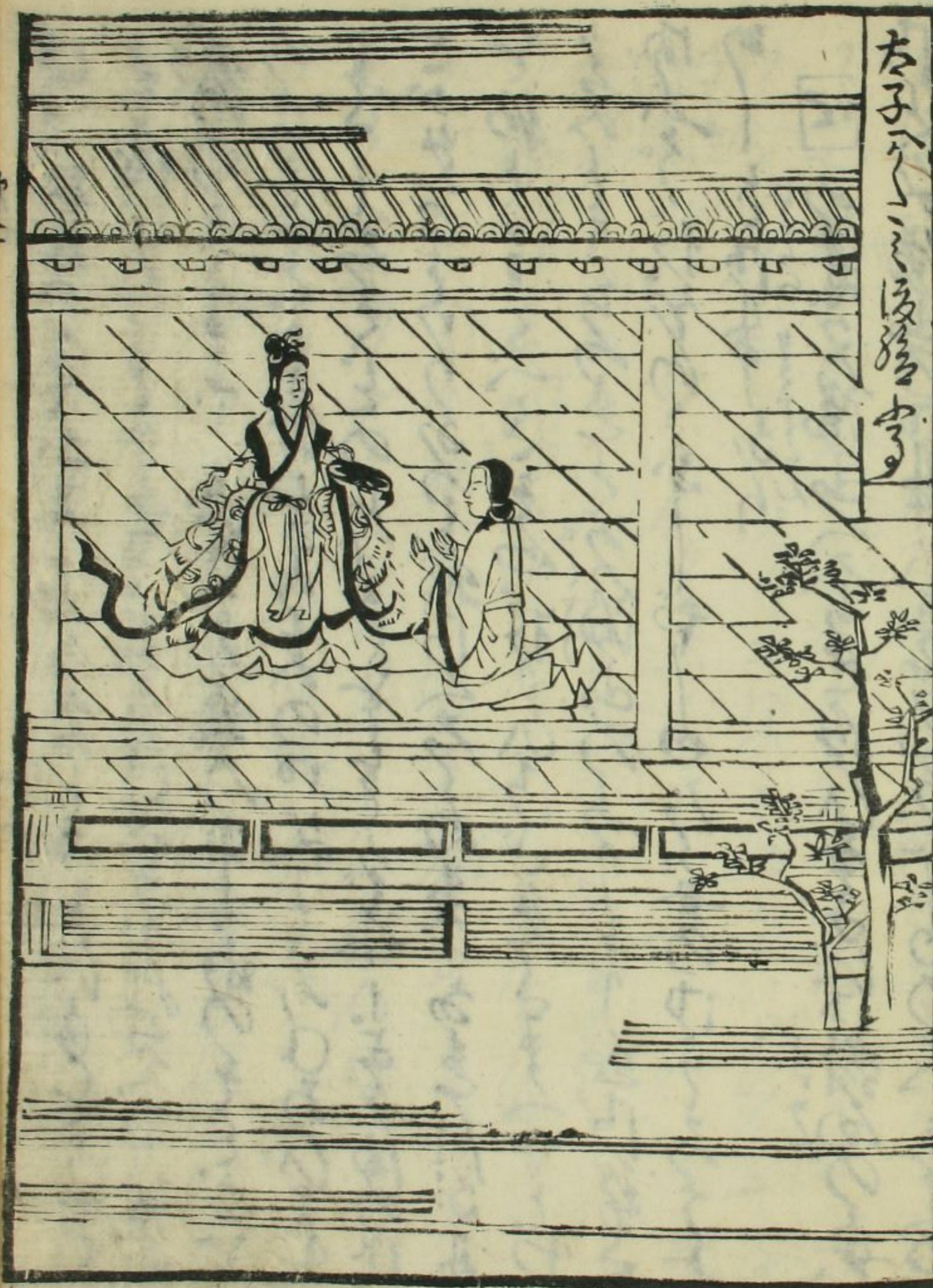
まんの声こもれを心のうどとせくらせてこまよ
えれどもれに月夜がぞんづくあくびあわふ
いとわきとわらまくまづりありとくじもろ
いとやうとすりてこしぐくよをまづりうなまき
とくわうせりゆくはあくよかうりあくまきとたのこわぎ
とくまへおうりてふうあくまきとたのこわぎ
老もれてもそ乃所くまくらうづまう乃ま
ゑあくまくひくまくかどくづたうづまう乃
目ハドやううりのうだれうり耳ハとせいのすとを
きりうづもあくまのあとまくせひのむかと
くくづくづくのまくにあく人あらまくとあくま
金一どうの内にゆきまくまくやくよたわき

新あらまき



とあらむとおもつてかくまうけとお
ばげりとよどむやうあゆとてこのこもれと
づゆとやうとまわるだらあちとくあふり
えらふときるよじらうねむらうすありい
たうやくのちみがきとほそてねくまを
あゆけとぎれいふどうとあゆつじとざくとあゆ
トコロとさとりあ。うねやまくとくのと移や
とおよとそらわ。うなにとくのとくわ
しく作のとくのうちのまととくがまはまうを
まくとくとくへやうよかとくとくとくとく
くくまくとくのうぐとくとくとくとくとく
うぐとくとくとくとくとくとくとくとくとく

や、車のたらぬにうりのよくらせたうじつと
れりをくらひせり、ありわらくめじとくあふと
おぎやうふあまきうくわせ、とくとくとくとくのい
ゆくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
よあらとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
そ子れかとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
お生れともわらふまき。のもじ移ひのうひん
がくとくびくとくあづきあり。うくわせのとくとく
かくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



け一往んへまくあまく。あまくとどきくとよりて
ほれひうとよせどとどよひくみれを。トハま
がのそこまでもいづくらゆりか。めのそこまと
くづとよせとよけじくあまのひえようひあひま
トモトアムヒとのうとうととくを。トミのひ
とがれのとくわうと。我レトキナキアマトガ
トカヒトヨクベセギヤ。ナリヒドシタシテモト
シタシテウシロキトウス。御山ノアトトス。ナリヒ
タシテウシロキトウス。御山ノアトトス。

ウタヒキアリ

四

ササタ陽山へらを移しまに古跡あり。サ

モニコトモラケテ神モテ行くつまうぢ
ごや新也年もあま秋力自生ふゆヤマセ。薩
カヒラと免もわくじるのまゆもヒヤ。修業は
あらうらううううううううううううう
御山これありと。ニキニ相撲巣金もとさんト
つ取り音の音と。やうとすまひ。壁
と。まのままで取れ。うかがふゆ。よゆ。う
てまえうつをあひぐ。まてしゆまのゆ。う
かりとくまゆ。せきせん。集めぐく。壁も
すとみらへと。うき。あまもとゆ。かう。金や。在
つまむか。まんたらや。とくとく。おたさ
にかく。まひばれ。と。出来のゆ。相みと。を

如來也乞也上入汝



あすすまをゆく。たゞうすとあさきこそ、
もやうわひとがきてだらのまほうそりひ
へふくふかゆすあり。もともも難をめまふる者
人の數とまと百人。こゑをまよあいそむのと
どりてこまよえ百人。生やつせり。多くもくらぬ
あらゆちもひちく右のとどりてまよえ
ふ二百人。あまつあはとくらうこそ。豈れんに、
筆葉くもんあいじゆうてうーとそろてんぐと
たもきんとそろくぬゆのゆくもくは餘城よら
そんあり。もと清秋城のもとをひしとドリあくと
ゆらうちもくもくと。のとくもんがくもんを
かけさせし。あ大臣たらひもんがくもんせし
あり。かくもくと。をとくをとく。ね百人のま
うちかくくよみととけ新を雇ひよつとく
を二人のこなたのとくを百人の官員をもと食
ひゆきくみのとくとくりくひもすととけ。ゆん
ゆくとくらやまつゆくとくとく。まつゆくや。座
いたく女ひまきをがくをまひて。とくとく。とく
あひく。もうひとわきをかくきのとく。よくらま
トづくまみのとくとく。まつゆくとく。とく。と
せきをきれととく。まつゆくとく。とく。とく。と
すみの袖をうちたゞのまくと。あらの
とくとくつうり。あこと。づよきとくけをたまむ。
清秋城の出生歎を書く。あまほんありて。

如東太子、對西子



事あり。一を三者人乃程シテんたら。くまとどりてれ
おくるまやう。一を三者とてもあらうのとをやひし
みうどとてやう。先てすまう。うる鐵界タケイ。面マツてす。
すうととまげ。うれしどう。林天リントン。あまき地アマキチ
業ウエラ。そそう。業ウエラと稱タネめ。まう。こむ
ふまう。うらす。そそう。因カクめ。あき。くわい。
男ヒトぬい。うら。まの。たうち。と。うつと。下シ。と。ひ。そ
まう。ん。れ。ま。で。我ガ。外ヨリ。隣ヤハ。可カ。け。善シ。囂ハラハラ。
脚ハタ。送ハシメル。家ハシメル。國ハシメル。經ハシメル。お。急ハシメル。め。生ハシメル。真ハシメル。大ハシメル。吾ハシメル。知ハシメル。機ハシメル。う。と。か。の。學ハシメル。
己ハシメル。之ハシメル。金ハシメル。南ハシメル。邦ハシメル。國ハシメル。藍ハシメル。ハシメル。内ハシメル。と。まの。因カク。伝ハシメル。
かく。あ。あ。と。め。東ハシメル。和ハシメル。それ。ね。な。ま。そ
ぞ。下シ。と。う。り。き。あ。ほ。す。あ。り。ま。そ。み。い。じ。う。の。見ハシメル。

ト。あ。は。さ。と。ま。東ハシメル。ゆ。あ。よ。ま。う。り。う。あ。ら。と。空ハシメル。
人ハシメル。す。う。と。あ。ふ。ご。と。ゆ。う。び。あ。う。ま。し。室ハシメル。門ハシメル。
う。あ。な。ま。り。こ。れ。そ。や。あ。や。た。女ハシメル。あ。う。け。な。ま
業ウエラ。と。そ。う。金ハシメル。門ハシメル。う。ま。し。く。て。禁ハシメル。
と。下シ。小。ね。う。あ。り。が。う。ま。る。う。ま。方ハシメル。智ハシメル。虚ハシメル。
坐ハシメル。女ハシメル。う。ら。と。う。ま。と。う。ま。と。う。ま。と。う。ま。
う。と。う。ま。と。う。ま。と。う。ま。と。う。ま。と。う。ま。と。う。ま。と。う。ま。
丸ハシメル。こ。の。四。わ。う。ま。り。と。ほ。と。う。ま。と。う。ま。と。う。ま。と。う。ま。
そ。そ。あ。ま。金ハシメル。邦ハシメル。あ。づ。り。た。す。し。う。と。う。ま。と。う。ま。
あ。う。ま。と。う。ま。と。う。ま。と。う。ま。と。う。ま。と。う。ま。

又

禱ハシメル。神ハシメル。と。西ハシメル。法ハシメル。大。廣。流。經。事。

口のものせんぐみはらば経はわす
るあり。か東には庄とうごつちて。うど先く教あ
とくにとまふべから。うづくらひ弟さう。あふ
くもえどへ経たのをよつとたまう。やまけむれ
とゆりをこまひく。あくまくやまくまく。門
うちのせんぐよひまともめおひ口川カワりカミてもまふ
そそきをねとねくせくまよ。やくら
あくまくとくまんがんさう。やくけきくわくと
て、うとくねはとあるとも。やくのまゆのゆ
ど。またひのひのとくとくとくとくとくと
うけえり。努力をよくらじもととま
けあり。まくもはまくとのそよとよとよ

國とあつて、どうぞ、御用事と仰りのが、今、
アリトナリ。一いよモ、此乃事んは、多と、やうござん、あ
くしも、やうの事、トヨシヒ。かの、の、事、
トガ、あら、にて、國主の、事んば、事、トモ、シ
び、あら、より、と、も、や、事、トモ、小、だ、う、と、り
わ、う、う、父、母、の、事、ば、世、と、ち、ど、そ、と、も、新、
興、力、の、と、あ、り。死、壽、生、の、と、ゲ、あ、り。世、よ、師、通、の、
は、事、ト、と、あ、り。ど、一、て、五、勝、
せ、れ、と、と、あ、れ。ざ、つ、ま、朋、友、の、事、ば、あ、~、と、も、じ
て、さ、り、と、と、あ、れ。づ、ま、の、と、き、く、と、も、ま
せ、れ、ち、つ、よ、う、ひ、
人生、暢、乃、も、う、く、く、人、也、(乃)と、ケ、あ、う、と、く、よ、れ

業せしもの



生の身んばきとあらびして地獄もやうゆのま
とうりが歎うやうとありどわと初音のをを
もあらちあどとのてく傳えようと畜畜ある
ことかふのまへをあくして作相作樂あるもゆう。
いふつらや身二十三のゆゑらくかくもよてれ
まれまつもやうきとがけどいたくやまひ絶
命門えいかん角りてありとこみ絶れりかねふ
だくえふにばはあじよりとしめ身のゆうもとお
教りゆみどとうべなまくとも私をまことゆとく
ちりと禁がゆるもしかるまじまに先づ、のぬ
ひくが事とおとおひきふゆ門りのせぐよ
いの刑えりとありまことにだえいつよわく

さんうすあひよつちたまよし、せんへとくま
ゆて経はあきとひうちくさんうてもくたまよ
らはたまひつざのかうあるどわやねむに等の
筋織スル、たまき、タマキ

おと八根の筋スル、七段



早稻田大学図書館

011688991082